

36. ゴキブリ退治用のホウ酸ダンゴの作り方

代表的衛生害虫のゴキブリは、3億年以上も前より地球上に棲息しているといわれ、そのしぶとい生命力と繁殖力で今もなお、熱帯を中心に全世界に4,000種類、日本では50種類近くが存在する。大半は野外生活をするが、7～8種類は屋内に潜伏活動しており、細菌、寄生虫、ウイルス等の伝搬や、最近ではゴキブリアレルギーによる喘息が問題となっている。活動は夜行性で、人間が夜寝静まって空気の振動がなくなると活動を開始する。

ホウ酸ダンゴはゴキブリ駆除剤として民間に伝承されており、ゴキブリ等の雑食小動物の好物であるジャガイモ、タマネギ、小麦粉、砂糖、米ぬか等に、毒餌（ベイト）としてホウ酸を混ぜて団子状に成形したものである。現在では市販品も多く、ホウ酸の含有量も5～70%と幅がある。ホウ酸は細胞毒で、ゴキブリの表皮から浸透する接触作用と、経口的摂取による消化管内の共棲微生物殺菌作用および組織SH系酵素阻害作用により、ゴキブリは脱水症状を起こして死亡する。作用は遅効性で、効果が現われるのに4～5日程度かかるが、効果は確実である。

〔ホウ酸団子の作り方〕

家庭で作られている例として、それぞれジャガイモ、米ぬか、タマネギを用いたホウ酸団子を紹介する。

① ジャガイモを使った例

ジャガイモを蒸すかゆでて、つぶし、10～15%のホウ酸を混ぜて親指大のダンゴをつくり、天日で乾燥する。

② 米ぬか、グリセリンを使った例

ホウ酸40gと米ぬか140gをよく混ぜ、グリセリン20mLを加え、さらに水を加えて耳たぶ位の柔らかさにする。これを2cm位の平らなダンゴ状に成形し、天日で乾燥する。

③ タマネギ、小麦粉、砂糖、牛乳を使った例

タマネギ小1個をみじん切りにし、牛乳大さじ1杯を加えてミキサーにかけペースト状にする。これに小麦粉1/4カップ、砂糖大さじ1、マッシュポテトの素1/4カップ、ホウ酸100gを加え、直径約3cmの団子を作る。天日で1週間乾燥する。

〔ホウ酸団子の設置場所〕

台所の流し台の下、引き出しの奥、冷蔵庫の裏、ガスレンジの下の隙間等、暖かく、潜伏間隙のある場所に設置し、数ヵ月～1年で取り替える。

ホウ酸は毒性が強い（ヒトの最小致死量 成人8～30g 小児3～6g）。したがって幼児や痴呆老人、ペットが誤って食べることをないように、十分注意して設置することが大切である（誤食については107頁参照）。誤食防止に、ホウ酸団子を天日で乾燥する前に唐辛子をまぶすこともある。

〔文献〕 林 晃史：日本医事新報 No 3422：131, 1989, 薬局 34(12)：1673, 1983, *ibid.* 37(8)：

1031, 1986, *ibid.* 44(10)：1505, 1993.

日本医療衛生新聞 No 1947, 1985.4.5.

朝日新聞 1984.5.3.

島岡康之輔：直方薬剤師会薬報 No 8：40, 1989.1.